

# 小学校における表現運動指導事例に見られる用語の発達段階別分析

吉川京子

## I. 目的

表現運動は、児童にとって大切であると、小学校教員の9割以上がその価値を認めているにもかかわらず、カリキュラムに組み込まれていたのは、約6割であり、更に、指導している教員の約4割は、指導計画を立てることができず、指導の障害として、児童が動かない、助言の仕方がわからない、自分で動いて見せられない、良い指導資料がない等を挙げていた<sup>1)</sup>。これらの現状より、三浦は、小学校では、誰でもできる指導法の普及が必要であると指摘している<sup>2)</sup>。

そこで、本研究では、小学校における表現運動指導事例に見られる用語を要因別、発達段階別に分析することにより、表現運動指導実践のための基礎資料を得ることを目的とする。

## II. 方法

研究対象事例は、社団法人日本女子体育連盟発行雑誌「女子体育」(1992年～1994年)及び、松本千代栄監修・編集「ダンスの教育学 第2巻『表現運動』の学習」(徳間書店)に見られる、小学校の表現運動(1・2年は模倣の運動)に関する指導事例の全て、203事例(1・2学年57事例、3・4学年87事例、5・6学年59事例)、136文献とした。

事例中の用語より、1. 題材、2. 課題、3. 動きを引き出す刺激、4. 子どもからでてきたイメージ、5. 子どもからでてきた動き、6. 指導言語、を抽出し、1・2学年、3・4学年、5・6学年別に分類した。

更に、指導言語については、①動き、②空間、③時性、④力性、⑤身体部位、⑥身体の形、⑦友達との関係、⑧擬音語・擬態語、⑨イメージに分類した。

## III. 結果及び考察

題材は、1・2学年では「動物」「物質」、3・4学年では「物質」「人と生活」、5・6学年では「自然現象」「夢・物語」に関するものが多く見られた。また、他教科から題材を選択しているものが見られ、「生活科」「国語科」「算数科」「理科」「社会科」「図画工作科」「体育科」「音楽科」「家庭科」「学級活動」から取り上げられていた。1・2学年は「生活科」、3・4学年は「理科」「社会科」、5・6学年は「国語科」から多く取り上げられていた。

課題は、「感情価・動きの質」「運動」「群」が見られ、3・4学年は「感情価・動きの質」「運動」、5・6学年は「運動」が多く見られた。

動きを引き出す刺激としては、「物質」「音」「視覚」「言語」「体験・遊び」が用いられていた。

1・2学年は「体験・遊び」、3・4学年は「視覚」、5・6学年は「視覚」「言語」が多く用いられていた。

子どもから出てきたイメージは、1・2学年では「動物」「物質」、3・4、5・6学年では「物質」「自然現象」が多く見られた。加齢に伴い、「動物」「植物」「夢・物語」が減少し、「自然現象」「人と生活」が増加する傾向が見られた。

子どもから出てきた動きが明記されている事例は少なかったが、1・2学年が多く、「全身」「腕」「手」「指」「足」「背中」「首」の動きが見られた。「走る」「跳ぶ」「回る」「転がる」「足を上げる」は、各学年に見られた。

指導言語は、1・2学年では「イメージ」「擬音語・擬態語」「空間」、3・4学年では「擬音語・擬態語」「イメージ」「空間」、5・6学年では「空間」「擬音語・擬態語」「イメージ」の順に多く用いられていた。また、加齢に伴って、「空間」「時性」「力性」「身体部位」「友達との関係」が増加し、「イメージ」は、減少する傾向が見られた。

「時性」「力性」に関する指導言語には、「擬音語・擬態語」が多く用いられていた。

「擬音語・擬態語」は、1・2学年は「物の動き・変化」「形状・形態」「人の動き」、3・4学年は「物の動き・変化」「形状・形態」「音声・擬音」、5・6学年は「形状・形態」「音声・擬音」「物の動き・変化」を表すものの順に多く使用されていた。

教師が用いたイメージは、1・2学年は「動物」「物質」、3・4学年は「物質」「自然現象」、5・6学年は「自然現象」「物質」に関するものが多く見られ、子どもから出てきたイメージと同様の傾向であった。

各学年共に用いられていた指導言語として、【動き】では、「歩く・走る・跳ぶ・ジャンプ・伸びる・捻る・回る・転がる・揺れる」、【空間】では、「水準」に関する「高い・低い」、【方向】に関する「あちこち・右左」、【広さ】に関する「広い・大きい・小さい・その場で・遠く」、【時性】では、「急変」に関する「パツ」、【速い】に関する「速い・勢い」、【遅い】に関する「ゆっくり」、【力性】では、「強い」に関する「かたい」、【弱い】に関する「ふわっ・そっと」、【身体部位】では、「体全体・手・尻・足・足の先・頭」、【友達との関係】では、「一人で・二人組・グループで・友達と」、【擬音語・擬態語】では、「人の動き」を表す「そっと」、【物の動き・変化】を表す「ぐんぐん・ごろごろ」、【形状・形態】を表す「ジャー・ざー・もくもく」が挙げられ、各要因の代表的用語例と考えられた。

## 【文献】

- 1) 松本富子：ダンス指導の現状と課題、アジア国際舞踊会議発表論文集、74-84、1993。
- 2) 三浦弓杖：舞踊教育で今何が問題か、体育科教育、43、7、10-13、1995。